

## 本 棚

して続いてきたことを教えている。

「女性作曲家」と聞いて、だれの名前が頭に浮かぶだろうか。思い返せば、学校の音楽室にはベートーベンやシューベルトなどの写真が飾られていたが、そこに女性はいなかった。そして今なお、作曲は男性がするもので女性が苦手の分野という考えが支配しているといつてよい。しかし、歴史の事実は、古くから女性の音楽創造が連続と



梨の木舎発行  
A5判・248ページ  
2200円+税

著者(国立音楽大学名誉教授)はよくクラシック音楽での女性差別、男女格差を目の当たりにし、これまで一九世紀以降活躍した女性作曲家のコンサートを聞くなど、音楽史に埋もれた活動を正当に評価することに力を尽くしてきた。そこには、音楽界におけるジェンダー(性差)への強い偏見の克服は、現在の日本社会の閉塞を打ち破る価値観の転換につながる

## 激動の時代に切り込んだ女性音楽家

っているとの思いがある。ショパンのマスルカをいくつも編曲し、

本書はなかでも、フランスの音楽家(オペラ歌手)で作曲家、ピアノ演奏家でもあったポリリーヌト、チャイコフスキーなど多くの芸術家を魅了した。ロシアの文学者ツルゲーネフとの協働作業も傑出した音楽家と評価されるべきその生涯を浮かび上げさせている。ポリリーヌトに関するこれまでの

の顕彰活動を踏まえて内外の歴史資料、数少ない研究者の論文を集め、多家や作曲指導に力をつくした。出版のスペインの民俗性をもとよりイタリヤの古典音楽、ロシアの文学・音楽への造詣が深く、ドイツ語を含めて数

ポリリーヌトの作品のほとんどが歌曲だが、数多くの室内楽やピアノ曲、舞台作品、合唱作品を残し、だが本書を通じて強

